midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

３月号の１枚：簡易製材機を組み立てる

［巻頭言］自然エネルギーの利・活用

木質バイオマスの場合

自然エネルギーには、太陽光・風力・水力・地熱・波力・バイオマスがあると言われています。
いずれ、化石燃料が枯渇すると言われるようになって、急速に石油や石炭に代わるエネルギーの開発が注目を集めるようになりました。

森林に関わる当会としては、太陽エネルギーを固定化した樹木のエネルギーへの利・活用の可能性を考えるようになっています。相模原市への「内陸・グリーンハブ都市構想」提案の中にも、建築物としての木材有効利用以外に、新しい森林産業の創出として「木質バイオマスエネルギー」利・活用を提案しています。トウモロコシやサトウキビを原料としたエタノールは既に事業化されています。然し、食糧危機が言われる中で食糧を経済性（利益）創出の為に燃料にする事は納得できません。変わるものとして未だ、開発途上にあるけれど、樹木を原料とした植物由来燃料としてＢＴＬ（Ｂiomass to Ｌiquid) が注目を集め始めました。

地球全体で年間に植物が固定化する太陽エネルギーの総量は石油に換算して６００億トンだそうで、これは世界の年間エネルギー総量の１０倍にあたります（環境を守るほど経済は発展する：倉阪秀史・朝日新聞社刊）。化石燃料の埋蔵量があと８０　－１００年分しかないと言われる中、我が国で捨間伐と言われる樹木だけでも年間2000万m3もあるのなら、これを活用しない法はありません。勿論、建築廃材も視野に入れておきます。

＊バイオマスの中には、樹木以外に生ごみ、動物死骸、糞尿などがあり韓国・ソウルではこれらを活用した燃料公社が８社もあり、1200万人口の熱供給を行っています。これらも化石燃料に代わるものとして検討すべきと思います。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.03

３月　６日（第一日曜日）；
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
３月２０日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

2月6日（第一日曜日）

2月に入り、今回の活動が今年最初の小原本陣の森での活動となりました。

今回Forest Nova☆は、林道沿いの土留め、さらに材の皮むきの作業を行いました。まずは積んである細い材と太い材を選別し、選別したものを降ろして運び出す作業をしました。初めはスリングという両端に輪のついた太い紐を使って自力で材を降ろしていたのですが、緑のダムの皆さんからロープを使うと楽に材を降ろせる事を教わり、それからは楽に材を降ろすことが出来ました。その後、降ろした材をスリングを使いどうやったらいかに楽に運べるかを工夫しながら、下の土留めを行う地点まで運びました。

午後は下まで運んだ木を以前土留めした木の上に重ね、杭で止める作業をしました。材を持ち上げ、重ねるこの作業ですが、苦労して運んだ材を持ち上げるとなるとかなりの力が必要となり、その作業だけでかなりの時間をとってしまいました。その後、杭を打って材を固定する作業をし、ここで作業はほぼ完了となりました。

本格的な冬ということもあって厚着での活動が多くなりましたが、それによって活動中に汗をかき、活動終了後に体が冷えるということには十分気をつけなければいけないなと感じました。

瀬戸　智大（ Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

2月20日（第三日曜日）

今日は朝から曇り気味。だが、空気には早くも春の到来を感じさせる柔らかな感触がある。参加者４２名、うち２０名が中学生から大学生までの若者。若い人達が森林に関心を持ってもらえるのは実に有り難い。

森林整備班は雑木林のボサ刈りが本日の仕事。アオキや笹の伐採、枯存木の除去・整理などを行う。午前中は川田、石井、小林、山口、内野の５名での作業。大鎌を振り回すのは初めは気持ちがいいが、なかなか疲れる。ひとしきりの作業後、私はキノコの写真を撮ったり、ニュースレター用の取材にかこつけ望星の森を見学したりしてちょっと一休み。申し訳ありません。 ボサ刈りは単調といえば単調な作業ではあるが、 少しずつ森がきれいになっていくのは実に気持ちがよい。

左側：
小原本陣の森より
右側：
若柳嵐山の森より

雑木林にしろ、スギやヒノキの生産林にしろ、人が手を加えた森は最後まで人がしっかりと管理しなければならない。これは鉄則である。

ところで、こんな作業の中にも思わぬ発見があった。タヌキの溜め糞である。タヌキは仲間同士で共有のトイレを用いる習性を持つ。「ポンタは元気？」「タヌ子はどう？」など互いの情報交換の場にもなっているとのこと。その現場が何とボサ刈りの林の中に。できたてほやほやの糞も混じっていて、思わずカメラのシャッターを切る。その直後、川田さんがノウサギの糞を見つけて、ここでも撮影。冬の寂しい景色の中、嵐山に棲む動物たちの息遣いの感じられるひとときであった。

Forest Novaは、秋から間伐している木を山から降ろす作業を行う。夏より冬の方が材は乾燥していて軽いとはいえ、湿った丸太は重くてなかなか作業が進まず、1日中丸太降ろしを行いました。また、この日は森林の専門学校へ進学したForest NovaのOBも参加しており、チェーンソーの使い方や丸太の運び方を教えてもらう。このように頻繁にOBが来られるのも、森のいいところ。

望星の森では高校生と中学生でトチノキのナンバリングの更新。「とりあえず」つけていたナンバーを植樹年度によって分けられたナンバーにつけて替えていく。初めて望星の森の斜面に来た中学生たちはその斜度に驚き、戸惑うものの、さすがは若さ、あっという間に適応し、作業が進む。自分の内側にナンバリングテープやガンタッカー（大きなホッチキス）の刃を取り込むトチノキの生命力に驚きの声。３００本のナンバーの更新を無事に終えた。

昼食後、森林整備班には望星高校、杉並区の中学生が加わり、雑木林の整備もずいぶん進んだようである。私は川田さん、斎藤さん、松尾さんと共に新たに購入した簡易製材機の組み立てに加わる。部品が多いため組み立てには思いのほか時間を要し、完成したのは終礼間際の３時頃。しかし、この製材機は木工班にとっては今後大きな力になるであろう。木工班に加わってもらえるメンバーも募りたい。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
Forest　Nova☆は１月から、新体制に

2月20日（金）

1年生の終わりに4年生の先輩方からForest Novaを引き継ぎ、約2年間代表をやらせていただきました。そして、今年の1月に新3年生へ引き継ぎました。私がノバに入ったのは、森やそこに住む生き物が好きだからという理由でした。森や生き物がそこにあるだけで嬉しいのは、今も変わりません。けれどノバで活動してきてもう一つ感じたのは、「林業」という職業の魅力です。山をやっている方たちは、山も森も木のこともよく知っています。自然と向き合う「林業」という仕事が、かっこいいと思いました。

この2年間、同学年のメンバーにはとても助けてもらいました。発信が得意な人、気配りが上手な人、ものづくりが好きな人、話すのがうまい人、そしてみんなに共通していたのが「森が好きだ」という気持ちでした。初めて学生だけで行った間伐や、桂北小学校の子供たちが楽しそうに生き物を探す姿、小原の方からかけてもらった暖かい声。それらを今のメンバーと一緒に経験できてとても嬉しいです。

代表という役割は交代しましたが、森に対して自分が出来ることをしたいという気持ちは変わりません。後1年間もあるので、表向きには新3年生が中心になって活動を引っ張っていくことになりますが、4年生も負けないようにがんばっていきたいと思います。

また、知識も経験もない私たちがここまで活動してこられたのは緑のダムの方たちのおかげです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

神宮　理沙（ Forest Nova☆）

今年で5年目となるForest Nova☆を前代表の神宮理沙さんから引き継ぎ、新代表となりました植木聡です。

私がForest Nova☆に入った理由は、豊かな自然に囲まれながらも、その存在の貴重さに気づかずに過ごしている同世代に対して特に、森というものの存在の重要性を体験談を通し伝えたく、森関係で活動できる所を探していたところ、自分たちで整備できるフィールドを持ち活動している団体があるということを知り活動に参加するようになりました。

先輩方が作り上げてきたForestNova☆を、森という継続性の元、これからも活動を続け、多くの人に森の重要性を伝えていきたいと思います。そして数年後も相模湖の森で活動し、地域に根付いた活動を行える団体を目指していきます。何かとお世話になるかと思いますが、どうかこれからもForest Nova☆をよろしくお願いします。

植木　聡（ Forest Nova☆）

[報告２] 相模原市に「森林・林業政策」提言

2月8日（火）

約２万haの森林地帯を擁する旧津久井４町を合併して７１万人の大都市になった相模原市は、昨年４月、政令指定都市になった。2014年開通予定の圏央動や リニヤ新幹線がタイムスケジュールに入って来たことで相模原市は、「内陸・ハブ都市」として位置付けると発表した。　当会はこのマニフェストに環境性だけでなく、経済性・社会性を織り込んで欲しいと「相模原・内陸グリーンハブ都市」の名の下に「森林蘇生・再生・保全政策」を提言している。そこで、さる２月8日、相模原市・環境経済局・経済部と初めての意見交換会を開いた。

環境・経済・社会の持続的発展を目指すFSC認証森林を管理する「森林NPO緑のダム北相模」として自己満足的に森林の環境整備だけをしている訳には行かない。第一回目であるから双方、方向性を合意するに止まったが、話し合いは前向きで積極的な意見が続出した。
今後、行政だけでなく、各方面の人々と意見交換しながら具体的な内容を詰めて進めたいと思っている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告４]緑のダム湘南の森

1月14日（金）

本年最初の仕事は、ヤブラン平より始めました。サクラなどの枯れ木を除伐して見晴らしを良くするのが目的です。サクラの他にイヌシデなどの枯れ木をチェーンソーで伐採、すっきりしてきました。他の仲間もそれぞれに、アオキやササの刈払いをしました。

ここは風も無く、太陽がさんさんと降り注ぐ、冬でも暖かく、また夏になると緑陰とそよ風に恵まれて涼しく、皆のお気に入りの場所となっています。

河津桜が5輪も咲いているのを見付けました。もう春の気配がしているのです！！「冬来たりなば、春遠からじ」という言葉が、冬至を過ぎるとしみじみ実感されるのです。いつも通り、ともしびショップで反省会をして帰途に着きました。

なお、１月２２日（土）の定例作業日は、佐藤が「丹沢大山自然再生活動報告会」参加のため欠席しましたが、６名の出席者で実施されました。１名の入会があったとのことです。

佐藤　憲隆（緑のダム湘南の森）

湘南の森の河津桜

[報告５]名栗さわらび隊より間伐の取組みについて

2月9日（水）、10日（木）

この日は、出掛けに雪に見舞われましたが、現地は晴れ間が迎えてくれ、二日間無事活動できました。

名栗さわらび隊では、枝打ちにこんなに方法があるかとびっくりする程の方法が集結しました。歩いて登る「河野式」、座って登る「与作」、棒とロープで登る「ぶり棒」、現地調達製「木製梯子」（それぞれ写真参照）、アルミ製「一本梯子」と５種類の体験が出来ます。

井上師匠による懇切丁寧な指導で、体験者の皆さんが一回でマスターされ、上空の作業を楽しまれています。名栗では昔から木製の、一本梯子が使われていました。郷土資料館に復元、展示されています。山主の浅見さんはプロの林業家の技を指導してくれます。

今回の２０年生のヒノキ林は、山主さん一人で枝打ちをするには広すぎるフィールドです。すでに約半分ほど済ませてありますが、残りはかなり枯れ上がっていて、枝打ち作業の９０％は「枯れ枝落し」状態です。林床には草一本もなく土が流れ始めています。

朽ち果てた丸太でも、枝打ちので落とした枝でも、十分に土砂流出防止が可能なことが、現場で確認できました。成長の遅れた「下木」や極端な劣勢木、罹病木、欠損木などを、調査してマークし、山主さんの確認をいただき、これらも土砂流出防止に活用します。

現フィールドは３０分くらいの行程があり、昼食は山の中でとなりますので、初日のお弁当はご持参下さい。スタートは９時を予定していますが、遠方の方は、今まで同様お出かけ下さい。昼にお迎えの下山を予定します。但し事前にご連絡下さい。

斉藤　憲弘（本会、理事）

名栗の森より

[コラム]「森の話」
第２回　菌根菌って何？

前回もキノコの話をしました。「えっ、また！」と思われる方もおいででしょうが、我慢してください。今回はちょっと違ったタイプのキノコの話。

マツタケは日本人であれば知らない人はいないキノコです。「香り松茸、味しめじ」といわれるように憧れの的となっていますが、そんな高貴な香りも「履き古した靴下の匂い」のようだと嫌悪する人々も世の中にはいるとか。にわかには信じられない話ですが、国、民族、その食文化によって香り、味の受けとめ方は様々ということでしょう。

ところで、スーパーでお馴染みのシイタケ、マイタケ、ブナシメジなどとは違い、マツタケは樹木からは生えてきません。生えてくるのは地面から。

マツタケを初め毒キノコの王者であるテングタケの仲間などは木材や落ち葉を分解する能力を持っていません。その代わり樹木の根に菌糸を張り巡らせ、まるで鞘のように根の先端を覆います。そして、樹木の根を乾燥や害菌から守ると同時に、蔓延した菌糸により木の根の届かないところの水分、ミネラルなどを樹木に供給する働きをしています。そのお蔭で樹木は健康に育ちます。親切極まりないキノコですが、キノコの方でも樹木が光合成により生産した糖類などの栄養分をもらえるため、互いに持ちつ持たれつの関係にあるといってよいでしょう。このようなキノコを「菌根菌（きんこんきん）」といいます。まるで学校の授業開始のチャイムのような名前ですが、現在では植物の多くがキノコ、カビなどの菌類と共生していることが知られています。菌類はこんなところでも大活躍。やはり「キノコは木の母」です。

さて、菌根菌は生きた樹木の根につくため人工栽培が難しく、マツタケは依然として高嶺の花。もし栽培技術が確立されたなら、これはノーベル賞ものでしょう。そんなマツタケでも古くなったものは食中毒の原因になるので要注意。もっとも、マツタケを長いこと冷蔵庫にしまっておくような贅沢な家庭はあまりないかと思いますが。

内野　郁夫（本会、理事）

・アケボノドクツルタケ（テングタケ科）、左
世界屈指の毒キノコ。英名はDestroying Engel。
・タマゴタケ（テングタケ科）、右
派手な色ですが、おいしいキノコです。

[事務局からの
お知らせ、お願い]

９月号から会報の郵送を取りやめています。継続して郵送を希望される方は以下をお読みください。

　現在、会費は３千円です。最近はNPOが増えているため、助成金の確保が難しくなっています。総会で決まった通り、事務費低減のため、会報は当会ホームページの閲覧を原則として、従来通りの郵送をご希望の方には、郵送費（１千円）を負担して頂きます。（ご希望のない場合は郵送は致しません）
　ご協力よろしくお願いたします。

杉並区教育研究会、環境教育部会にて事例報告

　2月16日に杉並区教育研究会の環境教育部会があり、若柳嵐山の森での中学生による取り組みを報告しました。
　なぜ人工林は放置されてきたのか、どんな機能や価値が失われつつあるのか、本会FSCの取り組みを中心に報告してきました。また実際に

参加した中学生の感想を、「やりがい」をキーワードに紹介しました。参加者の若い理科の先生に田舎が森を持っているらしいが、入ったこともなく、関心もなかった。しかし、今日は興味深く話を聞けた、ぜひ自分の中学の生徒とも参加してみたいとのお声もいただきました。
　今後、杉並区の取り組みとして「なみすけの森づくり」というプロジェクト提案し区内中学生による森づくりとする予定です。これは区内から中学生を募り森林整備による二酸化炭素吸収を杉並区のカーボンオフセットとするものです。新宿区や港区では区民による森づくりが行われていますが、中学生による取り組みは興味深いものだと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願いします。

宮村　連理（本会、理事）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ、マルモ出版